

田植えの様子。無農薬の水稲栽培では、水田での除草作業が仕事の多くを占めるといふ。



巨大な大根! 「自然に育った野菜は、みんな個性があります。曲がついたもの、大きいもの、小さいもの、二又になったものなど、同じ畑で育てても、大根も人参も、1本1本が違います」。



由井寅子さんが語る

# 自然の営みに寄り添う 土づくりを大切にしたい自然農

自ら「百姓」を名乗り、自然型の農業に取り組んでいるのが、日本豊受自然農株式会社代表の由井寅子さん。土壌や微生物を大切にしたい自然農のポイントや、健康に生きるための食について聞きました。

取材文◎本誌編集部

医師も匙を投げた病から  
救ってくれたオーガニック

「かつて私は、イギリスで報道の仕事をしていました。仕事で海外に渡るには多くの予防接種を打つ必要がありました。そして生き馬の目を抜くような業界でのストレスフルな生活。さんさん身体を酷使してきた結果、潰瘍性大腸炎を患い、医師からも『治療法がない』と告げられました。そんな私の命を救ってくれたのが、ホメオパシー。そしてオーガニックの食だったのです」

そう話すのは、日本のホメオパシーの第一人者であり、日本豊受自然農株式会社代表の由井寅子さん。帰国した由井さんは、日本の農業に衝撃を受けます。農薬や除草剤、化学肥料を大量に用いる慣行農業しかやっていない! 英国王室さえそれに取り組むほど、ヨーロッパでは

オーガニックが当然のものだったのに……。そこで1996年、由井さんは日本に自然型の農業や食事、生き方を伝える活動を始めました。さらに由井さんにとって転機となったのが、2011年の東日本大震災でした。

「被災地で、多くの人が水と食に困っていました。そして配布される食べ物には保存性を高めるため添加物満載のものが中心。未曾有の災害で心が沈んでいるときです。せめて食事だけでも、安心・安全で楽しめるものが必要では? 安全な保存食の必要性を痛感し、それを実現するために、大規模な自然型農業をやらなければと考えるようになりました」

## 日本に自然農を 広めていくための活動

由井さんは、愛媛県のみかん、イモ、麦を作る農家の出身です。「貧乏だったので農薬を買えず、結果として自然農を行っていました。毎朝、登校前に農作業を手伝っていたのですが、その経験が今、とても活きています。また、農業を通じて、『お金がなくとも土と種があれば生きていける』とも学びました」

そんな由井さんは30年近く自然療法ホメオパシーを実践してきました

た。そしてその活動の中で、あることに気づきます。

「レメディで一旦は治癒したように見えても、すぐに同じ病気を繰り返す人がいるんです。何が問題なのかを観察するうち、根深い食の問題があることが分かってきました」

ところが、いざ食生活の改善しようとして始めると、世界一の食品添加物大国・日本では、加工品も農作物も化学物質まみれ。毎日安全な食を確保するのは非常に困難でした。

そもそも手に入らなかつたり、高価過ぎて手が届かなかつたり。さらには、ようやくオーガニックのものを手に入れたと思いきや、日本の有機認証が緩すぎて、回数こそ少ないものの結局農薬や化学肥料が使われている。有機野菜「だつたり……」

「状況を打開するには農業から変えるしかない! 種を自家採種し、それを育てる。循環型で、もちろん化学品も使わない。そんな本当の自然型農業を始めようと決意しました。さらに収穫した作物で無添加の加工食品を製造する工場も作りまし

## 不自然なものを使わない 豊受式自然農のこだわり

由井さんたちが行っている農業は「豊受式自然農」。「豊受」は、「古

事記」に登場し、伊勢神宮外宮に祀られている五穀豊稔と食事を司る女神・豊受大神(豊宇氣比売神)の名前に由来します。

豊受式自然農では、土壌菌、虫たち、鳥、人や生態系に害を及ぼす農薬、除草剤、化学肥料など不自然なものは一切使いません。また、雄性的不稔(F1)、遺伝子組み換え、ゲノム編集などの種も使いません。

「私たちは、先祖伝来の在来種・固定種の種を自家採種して使います。また良い土壌菌を増やしていくミネラル豊富な土づくりをしています」

由井さんたちは、第一に「安心安全であること」、第二に「栄養価が高いこと」を重視。そして第三に、「そうはいっても美味しく、見た目が良ければなお良し」をモットーに作物や加工品を作っています。

「自然型農業は、植えたまま放置するのとはまったく異なります。植物は愛情をかければ確実に応えてくれます。根菜の形が一つひとつ異なるように、植物にも個性があり感情があるのです。刈り取られることを恨みもせず身を差し出す植物は、非常に高い霊性を持っています。だから、愛情と感謝、自然への敬意を以て作物を育て、加工品を作る。そうすると、出来上がった作物や加

日本豊受自然農株式会社では、6月3日(土)に、「第15回日本の農業と食を考えるシンポジウム」を開催します。「大切なことをお話ししたいと思いますので、是非ご参加ください!」。